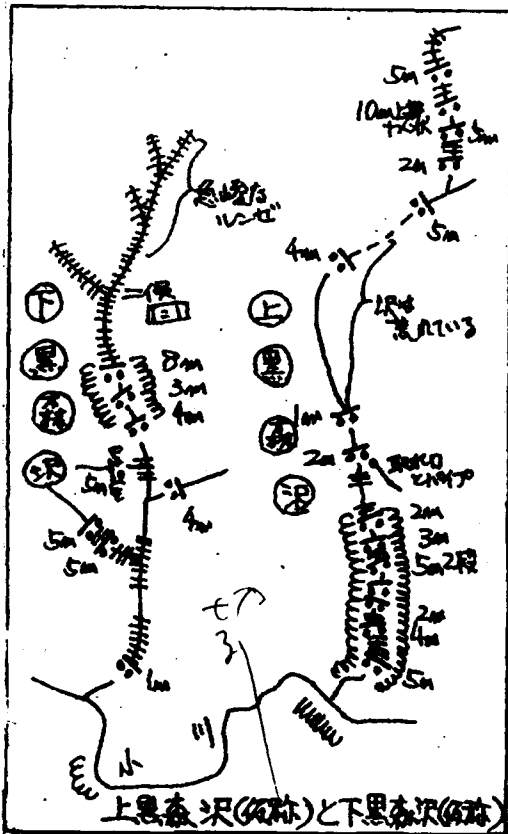


## 下黒森沢(仮称)

1983年7月30日



黒森山東方の尾根は、北側斜面がややに切り立っている。樹林帯でなければとても下ることができないような急傾斜である。

14:45下降を開始する。すぐ左手が急峻なルンゼとなった。あまり急すぎてここは下れない。ひたすら樹林帯を下る。やがて右手もルンゼとなり、14:55左右のルンゼの合流点へと出た。

を出して懸垂下降にて沢に下る。上部に比べるといくらか傾斜はゆるくなってきているとはいえ、まだかなりの急傾斜である。この先も2度、右岸の樹林帯に逃げ込んで、懸垂下降にて沢に戻るといったことを繰り返す必要があった。

15:20二俣着。左俣の方は右俣に比べると傾斜はゆるくなっているようだ。二俣のすぐ下に滝が3つ続く。最初の8mは、シャワーを浴びながらクライミングダウン。あとの2つはそれほど苦勞することなく下れた。

あとは困難な所もないまま小川本流へ出る。15:45。 (記 〇)

【タイム】 下降開始(14:45)→下降終了(15:45)

## 中野沢(仮称)

1983年11月5日

中野第2トンネル出口より右に入った所の林道脇に車を止めて少し歩くと、右に曲がる所より左に入る道がある。この道はすぐ二分する。まっすぐの道はこわれて渡るのは危険な状態の橋に突きあたる。左の道をたどり、丸木の橋を渡って沢ぞい

に歩き、先ほどの直道の道を合わせて中野沢(仮称)を横切る所から遊行開始。

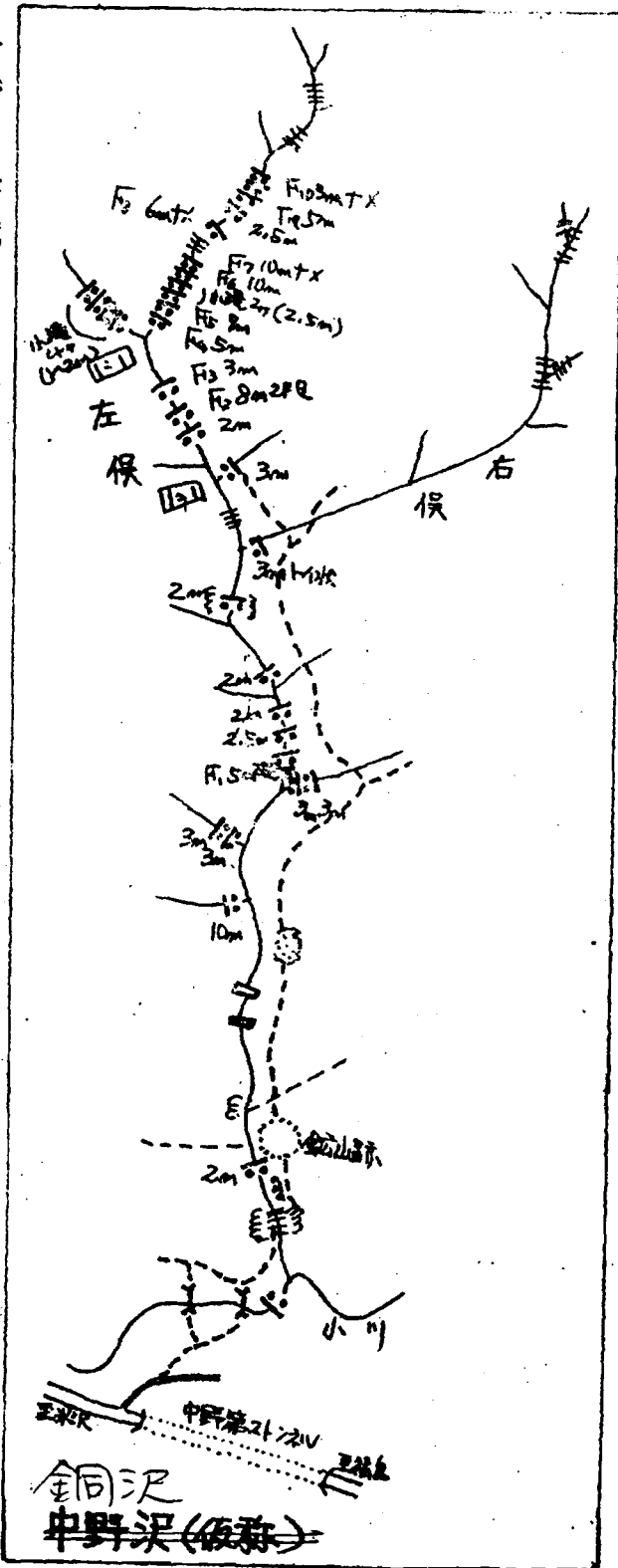
ナメのゴルジュを過ぎ、左岸に石垣が出てきて、2mの小滝となる。このすぐ先左岸に鯨山跡がある。ここから左岸にはっきりした跡跡があり、かなり上まで続いている。

沢はしばらく小さな砂防(今は土砂で埋っている)2つだけで何も無い。右岸から小沢が合流したあと、二俣となる。左に入り、F1 2段滝を軽く越える。

この先小滝を3つ程越え、沢は右に曲がってすぐゴルジュ状になり、小滝がかかる。左岸のテラスをトラバースして越えると右俣の分岐となる。

右俣には3mの滝がかかっているが、こちらは下降に使うこととして左俣に入る。ナメや小滝がかかるが、いずれも軽く越えられる。左岸にはトロッコ用のレールが残っており、ここより下の鯨山跡のあたりまでトロッコを引いていたのであろうか。

この先また二俣となり、両方に滝がかかっているが、おもしろそうな右沢に入る。小滝やナメが続き、あきさせない。最後



はV字状のナメ床となる。水の無くなるまでつめてから尾根に上がる。

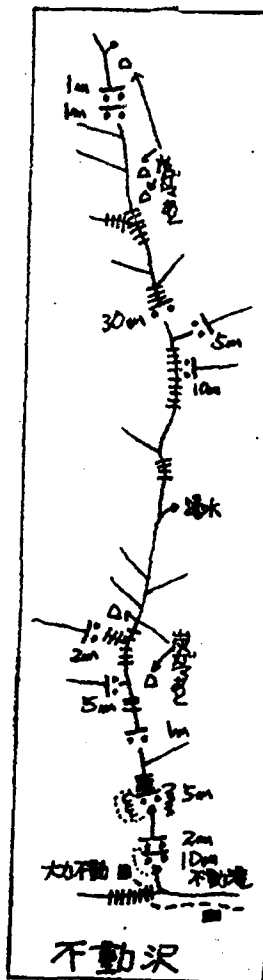
尾根を382.8mピークまで歩いて右俣に下る。尾根上は所々にそれらしき跡が残っている。右俣は最初急なナメ状の下りであるが、そのうちゆるい下りとなってナメもなくなり、平凡なまま左俣との合流点に至る。 (記・ )

[タイム] 中野沢(仮称)出合(10:05)→遡行終了(12:20)→下降開始(13:25)→二俣(13:50)

## 不動沢

1983年5月22日

I



沢登りは今日が初めてという兼子さんを加え、3人で不動沢をめざす。大滝宿の近くに車を置き、林道をたどって大不動尊まで大急ぎで進む。大滝の部落から50分もかかるこんな山奥に宿泊施設までそなえた立派なお堂が建っていた。

8:55遡行開始。最初の不動滝10mは直登できそうにも思えたが、初めてワラジを履く兼子さんのことを考えて右岸を捲く。出だしの雰囲気としては上々。暗い沢筋に迫力ある滝とくれば前途おおいに期待というところである。

続いて5mの滝。私が最初に取り付き右岸を直登したが、ホールドも細かく、後続の2人には高捲きを指示する。あとは一転して平凡な沢となった。

しばらく歩いていると釣り人に会った。「奥の滝まで行くのか。」と聞かれる。「葡萄沢山を越えて栗子トンネルの方へ下るんだ。」と答えたら、目を丸くしていた。でもこの釣り人との遭遇で、奥に大きな滝があることがわかり、勇気を取りもどして歩いてゆく。

10:50本当に滝があるのかと疑い出してきた頃、ようやく滝が出てきた。階段状になって30m程の落差がある。ホールドが豊富で、割合と簡単に乗り越えることができた。ただし、途中で兼子さんがスリップして落下。補助ロープで確保していたので、事なきをえた。